

1月 ◆「郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」を設置

2月 ◆三菱復興支援財団と「果樹農業6次産業化プロジェクト」の推進に伴う連携協定を締結

◆西部第一工業団地起工式

3月 ◆郡山市業務継続計画(BCP)策定

◆東日本旅客鉄道(株)仙台支社と災害発生時の帰宅困難者の避難所への誘導や駅舎内への一時受け入れに関する災害協定を締結

◆イオン(株)と地域貢献協定を締結 ◆「郡山市手話言語条例」施行

◆市の会計に企業会計の手法を取り入れた複式簿記・発生主義による新公会計制度を導入

◆東日本大震災で公共施設としては最大の被害を受けた中央公民館と勤労青少年ホームがリニューアルオープン

◆久保田保育所、北部・西部地域子育て支援センターがオープン

◆「郡山市希望ヶ丘学園」が移転新築しリニューアルオープン

◆「郡山市都市計画マスタープラン」改訂 ◆「第六次郡山市高齢者福祉計画・郡山市介護保険事業計画」改定

◆芳山小、片平小、多田野小、東芳小児童クラブ開所 ◆生活困窮者の自立支援制度開始

◆東日本大震災の記録・記憶を後世に継承する「デジタルアーカイブ」の運用開始

◆市と水道局で入りと開札の手続きをインターネットで行う電子入札を一部導入

◆公民館などを利用する市民の利便性向上のため、新たにインターネットでの予約受付を開始

◆「土砂災害ハザードマップ」を各地域ごとに作成

◆ゲリラ豪雨などで発生が予想される市街地の浸水状況を立体的に表現した「3次元浸水ハザードマップ」を市ウェブサイトで公開

◆認知症の方とその家族を支援する「こおりやまオレンジカフェ」オープン

◆「文化スポーツ部」を新設・農林部園芸畜産振興課内に「鯉係」を設置

◆ふれあい科学館の有料ゾーン入館者が200万人を達成し記念セレモニーを開催

◆市長がアメリカ・バークレー市などを訪問し、国際シンポジウムへ参加。震災復興への取組について講演し復興の加速と

風評の払しょくに向けた本市の取組を世界にアピール

◆JR東日本、郡山青年会議所等の協力のもとJR郡山駅の発車メロディーを本市フロンティア大使を務める「GReeeN」の曲「キセキ」「扉」へと変更

5月 ◆(株)ウェザーニューズと減災プロジェクトに関する協定を締結

6月 ◆2020東京オリンピック・パラリンピック関連事業等推進会議開催

7月 ◆市役所本庁舎防災危機管理課内に「災害対策室」を設置

◆(独)都市再生機構と包括的なまちづくりの推進に関する基本協定を締結

◆(株)富士通研究所と下水道氾濫センシングシステム実証実験に関する協定を締結

8月 ◆薰小、安積第二小、高倉小の校庭の除去土壤等のパイロット輸送開始

◆消費税率の引き上げに伴う臨時福祉給付金の申請受付開始

◆戦後70年平和記念事業を中央公民館多目的ホールで開催

9月 ◆すべての市立小中学校に1学級分のタブレット端末を整備し、これらを活用した授業を開始

◆旧赤津小学校に日本大学工学部と連携して進めてきた再生可能エネルギー共同研究施設がオープン

◆西部第一工業団地第1期工区の分譲申し込み受け付け開始

◆イングランドで開催された第8回ラグビーワールドカップで郡山市出身の大野均選手(本市フロンティア大使)が大活躍

◆三菱商事復興支援財団が本市と連携して事業を進めてきた「ふくしま逢瀬ワイナリー」が完成し、竣工式を開催

◆マイナンバーの通知がスタート

◆全国学校音楽コンクール(東京都)全国コンクール高校の部で郡山高校が初の金賞を受賞し、県勢では5年ぶりに全国の頂点に立つ。中学校の部では郡山二中が全国2位の銀賞、郡山五中が全国3位の銅賞を受賞。

◆全日本合唱コンクール全国大会(さいたま市)中学校部門で郡山五中が混声、同声の両部で最高賞の文部科学大臣賞を受賞、大会史上初となる3年連続3度目の金賞を受賞。郡山二中が混声で金賞と2位相当のさいたま市長賞、郡山七中が同声で銅賞を受賞。

◆認知症高齢者見守りネットワークが発足

◆「鯉に恋するプロジェクト」始動

◆郡山商工会議所90周年記念式典をホテルハマツで開催

◆日本学校合奏コンクール全国大会グランドコンテスト中学校の部で、郡山二中が金賞と最高賞の文部科学大臣賞、郡山五中が金賞、小学校の部で金透小が金賞を受賞

◆「郡山市建築物等における物品の堆積による不良な状態の適正化に関する条例(ごみ屋敷条例)」施行

◆本市の豊かな自然が育んだ地酒や焼酎ジースなどで乾杯する習慣を広めることで市産品の消費拡大及び地産地消を推進するための「郡山市乾杯条例」施行

## ふくしま逢瀬ワイナリー オープン

三菱商事復興支援財団が郡山市と連携して事業を進めてきました。事業の復興とにぎわいの創生に大きな期待が寄せられています。



『ワイン・  
リキュールの生産  
風景』

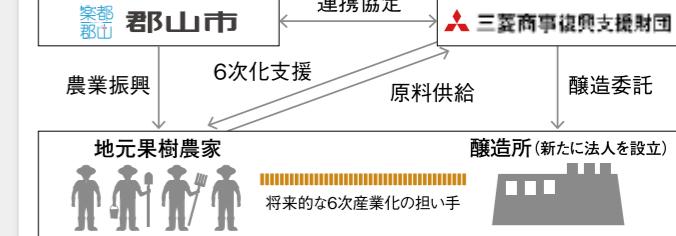


『竣工式の様子』

### ワイナリーの概要

建設地…逢瀬町多田野地内  
生産品…市内および県内で生産される  
ブドウ、梨、リンゴ、桃を使用したワイン  
とリキュール  
年間生産数量…約12,000ℓ

### 事業イメージ



## 鯉に恋する郡山プロジェクト始動

郡山市と生産者等が協力して、鯉の食文化を定着させるとともに、全国に「郡山の鯉」を発信すること目的としてプロジェクトをスタートしました。



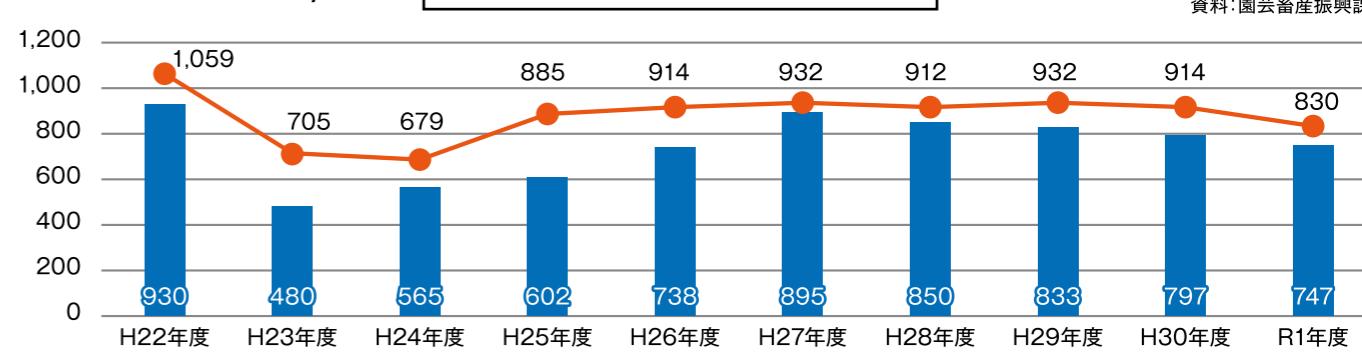
『郡山の鯉をPRする品川市長』



『現在も市内各地に残るため池』

## DATA

### 食用鯉生産量(単位/トン)



2015年(平成27年)

震災から5年目、復興は新たなステージへ



## 中央公民館・ 勤労青少年ホーム リニューアルオープン

震災により市内の公共施設としては最大の被害を受けた中央公民館が、4月にリニューアルオープンしました。

## 再生可能エネルギー 共同研究施設が オープン

9月16日に、日本大学工学部と協力して整備を進めてきた、再生可能エネルギー共同研究施設が開所しました。同施設は、旧赤津小学校の敷地内に設置されました。産学官連携による研究を進め、郡山発の新技術「浅部地中熱利用システム」の実用化を進めました。



『校舎と校庭をフルに活用して、研究を行います』



『採熱した地中熱の冷暖房効果を調べる試験室』

## 子育て支援センターがオープン

4月2日、久保田保育所・北部地域子育て支援センターと西部地域子育て支援センターの開所式を行いました。北部地域子育て支援センターは久保田保育所に併設し、西部地域子育て支援センターは大槻保育所に隣接しています。これで、市内の子育て支援センターは、ニコニコこども館などを含め、合計5か所となりました。



『西部地域子育て支援センター』



『北部地域子育て支援センター』

## ITへの取り組み



『タブレット端末を活用した授業の開始』

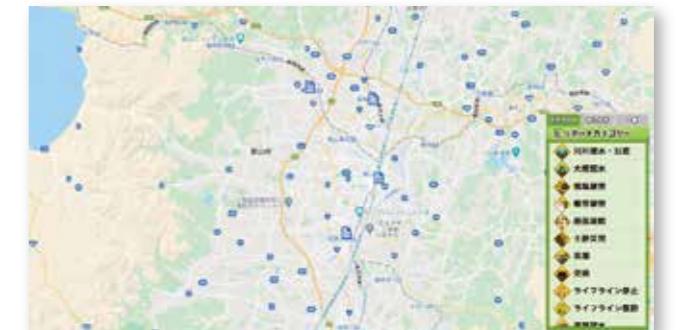
市では、全ての市立小・中学校に1学級分のタブレット端末を整備し、これらを活用した授業を開始しました。



## 減災プロジェクト

ウェザーニューズとの協定締結

5月29日に、(株)ウェザーニューズと減災プロジェクトの協定を締結しました。これにより、市民の皆さんのが周辺の災害情報などをウェブサイトに投稿できるほか、他の災害情報なども閲覧できます。





『ふくしまデスティネーションキャンペーンがスタート』 / 2015年4月

4月4日、JR郡山駅で「ふくしまデスティネーションキャンペーン」が開催されました。たくさんの方に見守られながら、品川市長や内堀知事などが「福が満開!福のしま!」とオープニング宣言を行いました。



『がくとくんバンドCDデビュー』 / 2015年3月

3月8日、がくとくんのテーマソング「羽ばたけ!がくとくん」のCDが発売されました。発売を記念して、市内のライブハウスでライブを開催!がくとくんバンドの登場に、観客の皆さんから大きな歓声が上がるなか、テーマソングなど計4曲を演奏しました。



『ふれあい科学館展示ゾーンと宇宙劇場が入館200万人を達成』 / 2015年4月



『大相撲郡山場所』 / 2015年8月

# あの日の記憶 vol.5

震災からの10年の歩みについて寄せられた記憶をご紹介

## 心の備え

(30代/女性)

私は震災を機に、自分なりの防災リュックを作りました。使ったことはまだありませんが気持ち的にも安心出来ます。

それに自分に余裕があれば、他に困っている人を助ける事が出来るかもしれません。国や自治体に助けてもらう事が当たり前と思わず、一人一人が心掛けておくべき事だと思います。

## 被災

(30代/男性)

当時、空き家となっていた祖母の自宅、ブロック塀が完全に崩れてしまいました。

あれから、もう10年も経つのだなあと…

郡山からも、いまだ避難をされている方がいらっしゃると聞いています。

復興のゴールはどこにあるのか考えさせられます。

## これからも防災意識を

(20代/女性)

震災から10年、風化されることなく震災から学んだ、すべき行動、いざというときの備え等日頃の災害対策を改めて徹底していくこうと思います。

## 助け合い

(20代/女性)

あの日、今まで経験したことのないような揺れにすさまじい恐怖を覚えました。食料品や下着等の生活必需品が不足する中、遠くに住む親戚や知人、友人がすぐ送ってくれました。

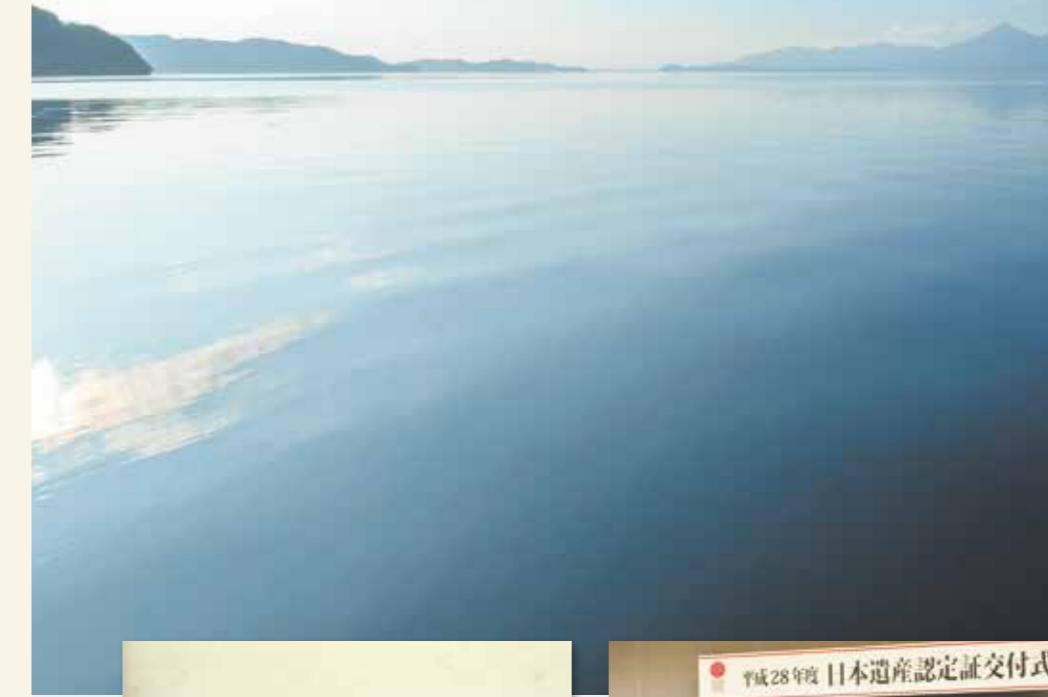
あの日以来、自分にできることをやろうと心がけるようにしています。



日本遺産

## 日本遺産認定

本市と猪苗代町が連名で文化庁に申請したストーリー「未来を拓いた『一本の水路』—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—」が日本遺産に認定されました。



『建設当時の開成館周辺』



『日本遺産認定証交付式』



『開成沼(現在の開成山公園)』



『開所したスマートシステム研究棟』

## 環境への取り組み

### ■産総研福島再生可能エネルギー研究所「スマートシステム研究棟」開所



『産総研福島再生可能エネルギー研究所』

先端的な研究開発や試験評価ができる世界最大級の施設で、太陽光や風力で発電した電力を、家庭などで使える電力に変換する大型パワーコンディショナー(電力変換装置)の試験評価を行いました。次世代製品の実用化を支援し、再生可能エネルギーの導入加速化への取り組みを進めました。



『大和田野所長の案内で施設を見学』

- ◆「ココナビこおりやま」がスタート
- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けオランダとホストタウン登録
- ◆市役所本庁舎東側に電気自動車用急速充電器を設置
- ◆日本郵便(株)郡山市内郵便局と郵便車両による子どもの見守りやネットワークを利用した特産品のPRなどの包括連携協定を締結
- ◆吉本興業による復興支援の一つとして東北初の情報発信施設「福島よしもと」がオープン
- 2月**
  - ◆少子高齢化や人口構造の変化などによる「人口減少問題」に対応するため、「郡山市人口ビジョン」と「郡山市総合戦略」を策定
  - ◆東京都の日本記者クラブで市長が「3.11から5年」と題した記者会見を行い、復興の現状や取組を世界にアピール
- 3月**
  - ◆「郡山市公共施設等総合管理計画」策定
  - ◆個人番号カードを利用してコンビニエンスストアで住民票などの証明書を取得できるサービスを開始
  - ◆西田町の未給水地区である高野・三町目上地区の一部で給水開始、給水開始式を実施
  - ◆三穂田町の温泉施設で全日本男子ウェイトリフティングチームがリオデジャネイロオリンピックに向けた強化合宿を実施
- 4月**
  - ◆本市と猪苗代町が連名で文化庁に申請した猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリーが県内で初めて日本遺産に認定
  - ◆安子島小地域子ども教室開所
  - ◆平成28年熊本地震の被災地に対し、救援物資の搬送や、義援金・見舞金の贈呈、専門職員の派遣などの支援活動を実施
  - ◆産総研福島再生可能エネルギー研究所で、「スマートシステム研究棟」が開所
  - ◆自治体キャラ唯一のバンド「がくとくんバンド」のミュージックビデオ完成披露試写会開催
  - ◆小泉小、穂積小、緑ヶ丘第一小児童クラブ開所
- 5月**
  - ◆郡山駅西口駅前広場リニューアル
  - ◆NHK公開復興サポート「明日へin郡山」の番組収録が行われ、人気番組の公開収録やスポーツ教室を開催
- 6月**
  - ◆関係団体と連携して日本遺産の魅力を国内外に発信するため、「日本遺産プロモーション協議会」を発足
  - ◆東北総合通信局などが主催する「情報通信月間・東北総合通信局長表彰」を初めて受賞
  - ◆インターネットによるテレビ会議システムを、田村地区の4つの小・中学校に導入しモデル地区として運用開始
- 7月**
  - ◆参議院通常選挙において選挙権年齢を18歳以上に引き下げ
  - ◆「はいかい高齢者身元確認QRコード活用事業」開始
- 8月**
  - ◆日和田ショッピングモールなどと大規模災害発生時などに物資の迅速な供給や駐車場の提供に関する災害時応援協定を締結
  - ◆サイバーダイン(株)の次世代多目的ロボット化生産拠点竣工式開催
  - ◆三和小地域子ども教室開所
- 9月**
  - ◆災害時に在住外国人などへの迅速な対応を促すため、防災ワークショップを開催
- 10月**
  - ◆日本大学工学部と資源・エネルギー循環型の汚水処理システムの構築や豪雨時の浸水予測などの下水道事業における連携協力協定を締結
  - ◆神田産業(株)(須賀川市)と、災害発生時におけるダンボール製のベッドやトイレ、間仕切りなどの物資の供給協力に関する協定を締結
  - ◆重度心身障害者医療費について、10月診療分から一部の医療機関において従来の「償還払い」方式に加え、「自動償還払い」方式を開始
  - ◆震災により被害を受けた中央公民館金透分室の改修工事が終了し再オープン
  - ◆本市フロンティア大使の湯浅譲二さんが作曲した「あれが阿多多羅山」の演奏会を、本市フロンティア大使の本名徹次さんの指揮により開催
  - ◆全日本合唱コンクール全国大会(高松市)中学の部で郡山五中が混声、同声の両部で最高賞の文部科学大臣賞を受賞、大会史上初となる4年連続4度目の金賞を受賞。郡山二中が混声で14年連続で金賞、高校の部では郡山高校が4年連続金賞、安積黎明高校が銀賞を受賞
  - ◆全国学校音楽コンクール(東京都)全国コンクール高校の部で安積黎明高校が銅賞、中学校の部で郡山五中が銀賞、小学校の部で大島小が銅賞を受賞
  - ◆ホストタウン相手国・オランダとの文化交流の一環として中央公民館でオランダ・フェーストを開催
  - ◆子どもたちが体を動かして楽しく遊べる施設として、大槻公園に整備を進めてきた「子どもの遊び場」がオープン
  - ◆医療機器の開発から事業化までを一貫的に支援する「ふくしま医療機器開発支援センター」が開所
  - ◆風邪やインフルエンザの流行状況が一目でわかる感染症流行警告ウェブアプリ「ワーンニング」の運用開始
  - ◆(株)ゼンリンと災害発生時に利用できる最新の地図製品などの供給に関する協定を締結
  - ◆(株)小松製作所とICT建機の利活用に関する協定を締結
  - ◆郡山市で開催された日本学校合奏コンクール2016全国大会グランドコンテストで郡山二中が最高賞の文部科学大臣賞を受賞、日和田中、郡山五中、金透小、郡山商業高校が金賞、橋小が銀賞を受賞
  - ◆本市と会津大学および郡山地域テクノポリス推進機構の三者間で、高等教育・産業振興や人材育成を図り、「持続可能な郡山の創生」を実現するための包括連携協定を締結
  - ◆「世界かんがい施設遺産」に、安積疏水が県内で初めて認定され、農林水産省登録証伝達式が開催される
- 11月**
- 12月**

## ふくしま医療機器開発支援センター開所

富田町において整備が進められていた「ふくしま医療機器開発支援センター」が11月7日に開所しました。センターでは医療機器に関する世界基準の安全性評価機能を有し、開発から事業化までを一体的に支援する国内初の拠点としてオープンしました。



『ふくしま医療機器開発支援センター』



『複合振動試験機』

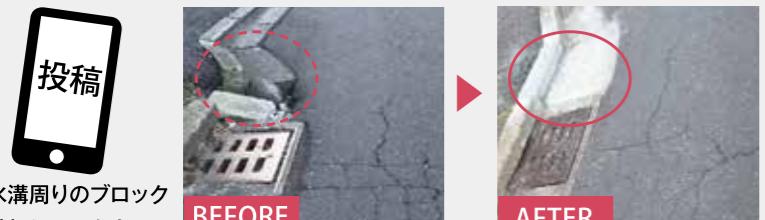


『模擬手術室』

## ICTの活用

郡山市は、東北総合通信局などが主催する「情報通信月間・東北総合通信局長表彰」を初めて受賞しました。これは、ココナビこおりやまの運用や、小・中学校へのタブレット端末の導入などが評価されたものです。

## 「ココナビこおりやま」



排水溝周りのブロック  
が破損しています。  
BEFORE AFTER

この他にも、防犯灯の故障や公園遊具の破損など、  
さまざまな情報の投稿が可能。

[ココナビこおりやま](#) 検索



『郡山市が「情報通信月間・東北総合通信局長表彰」受賞』



『インターネットによるテレビ会議』

## 子育て環境の充実



『大槻公園に「子どもの遊び場」がオープン』



大槻公園内に整備を進めてきた「子どもの遊び場」が11月にオープンしました。  
さらに市内3か所に遊び場がオープンしました。



『安子島小学校に地域子ども教室が開所』

## 『1000km縦断リレー』 / 2016年8月

東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーを視野に入れた、青森～東京間を縦断するリレーイベントが開催されました。2015年に引き続き、開成山陸上競技場が中継所となりました。



## 『全日本男子ウエイトリフティングチーム強化合宿を郡山で初開催』 / 2016年3月

三穂田町の温泉施設で、全日本男子ウエイトリフティングチームが強化合宿を行いました。宿泊や食事などの環境が整っているとして、本市で初めて実現したキャンプ。リオオリンピックを目指す選手が熱気あふれる練習に取り組みました。



## 『明日へin郡山』 / 2016年5月

NHKの番組収録などを通して、被災地の元気を発信する催しが、奥羽大学で開催されました。人気番組の公開収録やスポーツ教室などに多くの方が参加しました。



## 『ふくしまアフターデスティネーションキャンペーン』 / 2016年4月

郡山駅では、構内に花の装飾を施すほか、来訪者の皆さんにふくしまの魅力を発信しました。

『がくとくんバンドミュージックビデオ完成披露試写会』  
2016年3月

## あの日の記憶 vol.6

震災からの10年の歩みについて寄せられた記憶をご紹介

当時、古川学園高等学校(宮城県)に在籍していた私は、これまでにない衝撃と恐怖を感じたことを今でも覚えています。初めは何が起きているか理解することが出来ないまま、避難所になった学校で防寒具を運ぶ手伝いをしました。ライフラインも全て止まり、東北・日本で起きた事の大きさを知ったのは約1週間後でした。その後、練習は再開できたものの、すぐ近くで沢山の犠牲者や、未だ帰らぬ人の存在を知りながらバレーをすることがとても複雑でした。しかし、自分に何ができるかを考えた時、私にはバレーをしかないことに気が付きました。今しかできないことを、精一杯の努力と想いでやり抜くことが、きっと周りの人への勇気や励みになると思います。今でもこの経験が私を突き動かす原点になっています。今後も忘れてはいけない経験として記憶し、周りの人へなにかきっかけを提供できる人間でありたいと思います。

(デンソーエアリーピーズ元キャプテン/福島美花さん)

